小　平　西　の　き　ず　な

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 4

2013 年 1 月 17 日（木）発行

発行責任者：草野篤子（白梅学園大学）
TEL:　０４２－３４６－５６３９
住所：〒187-8570
東京都小平市小川町１－８３０

新年のごあいさつ

白梅学園大学　**草野　篤子**

小平西地区のみなさま、明けましておめでとうございます。

昨年の 3 月 17 日に、小平西地区地域ネットワークの設立集会が開催されてから、はや 10 か月を迎えます。地域の豊かな人間関係を作り上げることで、人と人の信頼関係を広げ、そして深め、子育ての喜びや一人一人が自分らしい人生を送っていく、生きがいのある暮らしを送れるように、みんなで力を合わせて、一歩一歩、歩みを始めています。

すでに、第 IV ブロックでは、「ホットスペースさつき」がスタートし、第 III ブロックでは、白梅学園大学の生協食堂でのコミュニティー・カフェが開催され、徒歩圏内で、気楽に集まれる地域の人と人との、顔の見える関係をきづく居場所が作られ始めています。NPO、ボランティア団体、学校、児童・民生委員、町内会、自治会、行政の代表、大学関係者で、「お互いの名前は勿論、お互いの顔の見える関係づくり」を、今年は、さらに進めていきましょう。

「西地区地域ネットワーク」とは？

昨年３月 17 日にさまざまな NPO、ボランティア団体、民生・児童委員会、町内会、大学・学校などに関係する方々が「お互いの顔が見える地域つくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。

市民の皆さん、一緒に活動に参加なさいませんか？

ロバート・パットナムは、メイキング・デモクラシー・ワークという著作の中で、ソーシャル・キャピタルを、人々の協調行動を活発にするためには、「信頼」「規範」「ネットワーク」が重要であると述べています。ソーシャル・キャピタルの豊かな地域は、失業率や犯罪率が低く、出生率は高く、平均寿命も長いのです（内閣府の調査）。　われわれの小平西地区地域ネットワークが、地域やコミュニティーが抱える様々な問題を解決する糸口となることを心から願って、今年も、みなさまとご一緒に集い、話し合いを進めて参りましょう。

小平市制施行５０周年記念事業

「子ども・教育フォーラム」に参加して

ネットワーク世話人・栄町在住　　布　昭子

ルネ小平中ホールにて、12月9日13時半から市政50周年記念事業の1つとして、「子ども・教育フォーラム」が、第一部では、「第4回児童絵画コンクール『だいすきなまち小平市！』と「調べて学ぼう！こだいっこコンクール」の表彰式、第二部では小中連携の視点をいれた各中学校区毎の意見発表が行われました。

小中学生が、自分の言葉で、小平の未来や街づくり、人と人のつながる暖かい町、お年寄りとのつながり、犯罪や飛行のない安全な町などについて、小平の特徴や現在の課題を自分に引き寄せて考え、発表の仕方も人に伝える工夫が随所に見られ頼もしく大人も見習わなければと思いました。

その発表を聞いて、大人がまずは襟を正して、未来担う子どもたちのために何ができるか、子どもたちが愛する小平の街づくりをどのようにしていけばいいのか、本気になって考えできることを進めていくことが大切だと感じました。

詳しい意見発表の様子は。市の HP でもご覧になれますのでよろしくお願いします。

小平市制施行５０周年記念事業「市民活動まちづくりシンポジウム」

なぜ、実行委員は熱中したのでしょうか？⇒好きだから　やるんです。

小平市市民生活部参事（市民協働）河原順一

前号の細江卓朗さんに続きまして、市の担当から見たシンポジウムについて報告します。現在、市では今まで行政が中心と担ってきた公共サービスを市民団体と連携して取り組む市民協働の取り組みが活発となってきています。この事業も、実行委員会の市民が企画、運営に携わり、市民の力でシンポジウムを成功に導き、成果をあげることが出来ました。市民の力がどうやって結集したのかを報告し、小平西地区地域ネットワークの活動の参考にしていただければと考えています。

さすが市民目線だなあ、と感心したのは、“みんなで創る「ずっと住みたいまち」小平”というシンポジウムのテーマの決定、パネルディスカッションではなく分科会にして市民の声を聴く場を設けたこと、講演時間が長いと疲れるので短く等、参加者に徹底的に配慮した企画案でした。これらの意見の取りまとめの仕方は、このシンポジウムについて実行委員がどう考えているか、企画・運営に関わる項目を検討フレームという様式で、事業開始の段階で意見を集約いたしました。市民参加のまちづくりに対する考えから始まり、キーワード、講師に話してもらう内容、役割分担等を全員で意見を出して確認するもので、この検討フレームを作ったことで、実行委員同士のまちへの関わり・思いが共有され、自分達でシンポジウムを開催し「みんなでいいまちをつくる」につなげていきたいという気運が高まったと強く感じました。その後は、残された時間は短かったですが約２０回に及ぶ会議を重ねて、講演内容、時間、役割分担等を決める事が出来ました。

最後に、協働では「情報共有なくして協働となし」と言われ、「信頼関係づくり」が求められます。今まで見知らぬ実行委員が、意見を交わし信頼関係が出来たことが、この事業の成果であると考えています。

「年末チャリティ美術即売＆コンサート」の報告

ネットワーク世話人
櫻田　　誠

小平市西地域内（小川西町 4―１４－２７）に在ります、自由空間　NMC ギャラリーにて「年末チャリティ美術即売＆コンサート」が、ＮＭＣビャラリー＆スタジオの主催で、12 月 14 日（金）～17 日（月）の期間開催されました。

この催し物は、今回で 15 回目となりました、恒例になったこの催しには、洋画、日本画、染色・イラスト・革工芸、押花、書・絵手紙、陶芸、手織り・手作り小物、トールペイント・デコパージュ、パステル画・水彩画、木版画、生け花・植栽等など様々な作家が協力されております。

なお、この期間中日替わりでコンサートも入場無料で開催、多くのフアンがこられておりました。不肖私も、書で参加致しました。この収益金は、地域や世界の恵まれない方たちの為に小平市社会福祉協議会・ユニセフ・NPO などに寄付されます。また展内では、ワークショップもにぎやかに行われました。

このような催し物が、15 年間も毎年行われてきたことは、主催者の木下福子様はじめ関係者の努力の賜物で心から敬意を表するもので御座います。このように善意の方々が多くいられることに、地域に住むものとして喜びに満ち、協力を惜しまないで行っていきたいと思う次第でした。来年の開催を目指して作品作りに、目標ができて楽しみです。地域の皆様のご参加を心から願う次第で御座います。

農と結いと西地域

柳下　登（理学博士）

農を通して西地域での人のつながりを考えてみました。農の営みを江戸時代の小平で見ますと、新田開発や玉川上水の歴史でもあります。そこは海抜約 80 m の武蔵野台地に位置し、水に恵まれず玉川上水の分水に頼っていたため、水田はごく限られ、畑の 6 割から 8 割が麦類で占められ、その他にひえ、陸稲それに灯油用の菜種でした。またこの地域は、季節風よる砂土の移動がはげしく、畑を茶で囲い、屋敷をけや木中心の屋敷林で守りました。けや木の落ち葉を集め、家畜の排せつ物と合わせ堆肥を作り、畑に施しました。

村には組とか差場(さしば) という互助組織がありました。農繁期に手間を貸す「テマガワリ」、養蚕期の「ヒキリヒロイ」です。水路の管理、屋根の葺き替えなど、共同作業をしていました。これが小平の「結い」です。
周辺の条件を活かし、資源の循環と人のつながりあっての営みが農なのです。

効率と競争原理による現代農業は自然や人のつながりを壊しています。それに対し、地域の有機資源の「生ごみ」利用で本来的な農を興すことは、西地域のコミュニティ形成ともなるでしょう。

生ごみを堆肥化している市民団体が小平にあります。市も「食物資源」のリサイクルモデル事業を行っています。食物資源のリサイクル活動は、発酵や栽培から生き物を「学び」、無駄をなくすことや土いじりで「喜び」を感じ、作った野菜による「安全・安心」の充足感、子供とかかわる「食育」と、奥が深いです。これに携わる人は主婦、農業生産者、行政担当者、教師、若者、子供と多様です。

人間の生の根源的な農を通して市民の「結い」、コミュニティをつくり、地域を活性化していきたいものです。

具体的な進め方は紙面の関係で次の機会にいたします。

大学のコミュニティ・カフェに参加して

ネットワーク世話人　石川　貞子

１１月９日（第２回目）１２月１４日（第３回目）に白梅大学で行われたコミュニティ・カフェに参加しました。白梅大学の食堂をお借りして行っています。

２回目の時は、全体で自己紹介をしてお名前を覚えるようにしました。その後、各テーブルに話合いをしました。お茶とお菓子を用意し、近くのお宅からいただいた柿もむいて出しました。年配の人は「買った柿と違い田舎を思い出す」「甘くて美味しい」と言って食べてくれました。

その後、白梅の学生が作った紙芝居を見たり昔の小平の生活の話を聞いたりしました。白梅大学の学生さんとお話ししている年配の方は、本当に楽しそうで、明るい笑顔が生き生きと感じられました。

３回目の時は各テーブルに名刺交換をしてお互いが自分の事を紹介し２回目の時よりさらに親しくなれたようでした。小平の昔話を手作りしているサークルの人から本が紹介され、その本の中からお正月の生活の様子を白梅の学生さんに読んでもらいました。小平の昔の人は、水を大切にして毎日苦労して生活していたことも分かりました。その後、よさこいを教えてもらいました。また、白梅の学生さんが電気がまで作ったケーキも好評でした。

今回は初めて白梅の近所に「コミュニティ・カフェに気軽にご参加を！」というチラシも配ってみました。そのチラシで、参加者が３名あったのはうれしい事でした。次回はポスターも張って宣伝してみたいと思っています。

小平西地区（白梅大学周辺地域）にも、高齢者の方が多く住んでいます。日頃あまり外出しない人たちもコミュニティ・カフェなどをつうじて交流が深まり、隣近所の人がお互いに「助け合い、声を掛け合い、そして仲良くなれるかけはし」になれればよいと思っています。現在、このコミュニティ・カフェはおもに白梅大学と学生さんが中心になって運営されていますが、今後は地域の人にも様々な形で協力してもらえたらいいなと思っています。

好評の「食べてお話する空間（コミュニティ・カフェ）」

家族・地域支援学科３年　（草野ゼミ所属）　辻原晃平

12 月 14 日に行われたコミュニティカフェは３回目を迎えることになり、第１回が行われたころに比べ、「地域の方とお話をする」ことを重点に置き、より変化していきました。

2 時間という短い時間でより満足していただけるよう、こちらからの催しをできるだけ使わず、来ていただいた方とのお話で時間を使えるよう工夫を施しました。その際、世話人の方々や大学院生の方々にご用意していただいたケーキや漬物といったものがより話を進めるための材料となり、ようやく「食べてお話する場所」としてのコミュニティカフェの礎のようなものが築けたと感じています。

特に、いらして頂いたニチイの利用者の方々に食べ物がたいへん好評な上、それを機にお話も進み帰り際に握手を求められることもありました。他にも、小平聞き覚えの会で用意していただいた歳時記がコミュニティカフェの趣旨にとても合うことから、地域の手足で稼いだ情報、我々の知らなかった事実をコミュニティカフェの空

気を損なうことなく伝えられることができ、あらたな発見でした。

第１回で行われた「よさこい」踊りも、コミュニティカフェ用に改良を行われたものになり、空気の機転となる新鮮なものでした。

第２回に「学生が離れていく、逃げていく」という意

見を多数いただいたので、3 回目の今回は十分に経験のある学生で対応ました。その成果なのか空気が冷めていく様子はありませんでした。

反省点としては、まだ予算が大学頼りで独立した運営には至っていないこと。さらに第 3 回は第 2 回の「学生が離れがち」という反省からほぼ場慣れした人員で運営していたことで、今後の引継ぎが行える状況にないこと。後者に関しては現在第一課題として検討中です。

第 3 回総じてでは過去 3 回の中で、来客数は 25 名程度と最も少なかったですが、出来そのものは最も良好でした。次回 1 月 17 日に行われる第 4 回では、高齢者以外にも学生やその中間世代の方々、また子どもにも楽しんでいただけるよう、お話と笑顔を強化できる企画にしていきたいと考えています。

白　梅　学　園　大　学

「ほっとスペース・さつき」でミニバザー開催

白梅学園大学　杉本豊和・森山千賀子

第４ブロックでは、地域の居場所づくりをスタートするために、六月ごろから物件探しをしてきました。そしていよいよ、オーナーさんのご厚意のもと、さつきハイツ（鷹の街道沿い、小川公民館入口左）1 階を借用し、「ほっとスペースさつき」をスタートさせる方向で準備が進んできました。

そこで、当面の運営経費のねん出と場所の紹介のために、10 月 25 日の日曜日にミニバザーを開催しました。ミニバザーを行うにあたっては、地域のみなさま、白梅学園関係者の皆さまから沢山の品物を頂きました。また、オーナーさま、杉本・森山専門ゼミの学生さんには室内清掃やバザー準備に協力して頂きました。この場をお借りして感謝申し上げます。

さて、当日は「雨天だったら誰の天罰にしょうか」という心配をよそに、晴天かつ暖かな日和で３連休の最終日にも関わらず、＊＊さんから聞きましたなど声もあり、西ネットの関係者を含め、大勢の方々が来てくださいました。また、杉本・森山専門ゼミの学生さんによる 10 円、50 円の値付けにも関わらず、5 時間ほどで 1 万 5 千円余りの売り上げがありました。

地域の方々からは「学生さんたちと一緒に取り組むことができて良かった」という声をいただきました。また、学生からは「予想していたよりも年配の方から子どもまで、本当にいろんな世代の人と関わることができて、とても有意義だった。日曜日だったけど参加して良かった」という声が聞かれました。

なお、コミュニティサロン「ほっとスペースさつき」として、1 月中には本格スタート（火・木開催）を予定しております。スタートに向けて、有志のカンパによってエアコンを購入し、今後はトイレの改修にも取り組む予定です。助成金も申請する予定ですが、当面の運転資金が必要ですので、賛助会費にもご協力をお願いいたします。また、春のバザーに向けて、物品も引き続き募集しておりますので、ご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。

地域とのつながり・支え合いがわかる

～第７回白梅子育て広場シンポジウム～12 月 15 日（土）

子ども学部子ども学科３年　五十嵐麻衣

毎年、この時期に開催している「白梅子育て広場シンポジウム」は今年で7年目を迎えます。今年は、総勢166名の地域の方、高校生、福祉や施設の現場に携わる方が白梅学園に集まりました。

主催に携わる白梅の大学・短大生と教職員を除く参加者は、92名に上ります。

今年のシンポジウムは、「子育てを見守る目を地域に増やすこと」そして、「つながりを実生活の中に増やしていくこと」について考え、「白梅子育て広場で広がるつながり～みんなで育てる地域の子ども～」というテーマで開催しました。

第1部の基調報告は、学生による活動報告です。『地域から見る広場』というテーマで、参加者にとって白梅子育て広場はどのような場となっているかを、アンケートや保護者の率直な声を用いて明らかにしました。また、活動を地域の方に知っていただく重要な機会となりました。

第2部では、「みんなで支え合う子育て」というテーマでパネルディスカッションを行ない、保護者、児童館職員、地域で暮らす方と学生の4名が討論しました。商店街のおじさんも、学生も、親子も、おばあちゃんも、「みんな」で子育てを見守れる地域に、という出発点から、私達の活動が想像以上に保護者の支えになること、ギブ&テイクの関係だけではなく、保護者が他の保護者の子育てを支えていくことが「支え合いの形」であることに気付きました。

討論で明らかになった私達の課題は大きく、学生として出来ることを考え形にすること、又、教員・保護者・地域の団体とつながることの2点です。

皆様に、白梅子育て広場があるから白梅に行ってみようと思っていただけるよう、今後も活動に力を注いでいきたいと改めて感じた一日でした。

感涙！　柱に残るメッセージ「お母さんに会いたい！」

第18回「チーム小平」被災地（石巻・女川）訪問報告

2012年12月3日

白梅学園大学・奈良勝行

はじめに

12月1日（土）～2日（日）に「チーム小平」で企画した東日本大震災で被災し、死者・行方不明者5,500人に達した石巻・女川地域の訪問に参加した。

このチームは被災地域の支援活動をする目的で立ち上げた災害ボランティアネットワーク。昨年4月中旬に第1回の支援活動を行って以来これまで17回にわたり現地を訪問し、倒壊した家屋の片付け、泥かき、家財の整理などを行ってきた組織である。今回の訪問はその18回目にあたる。

個人的には、石巻は昨年5月、今年3月に続いて3回目の訪問であり、女川（おながわ）は初めてであった。現地のコーディネーター（Aさん）が丁寧に案内・説明してくれたので初めて見聞きする事実も多かった。以下報告したい。

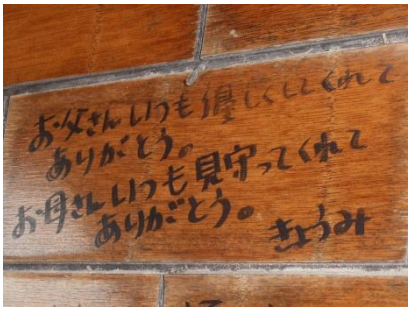
「お母さんに会いたい！」

…廃屋の柱に残るメッセージ

【初日】午前7時に小平を出発し、午後1時頃、石巻到着。午後3時頃、日和山公園から下って行き海岸一帯に入った。今年3月来たときは復旧が手つかずでガレキが多かったが、今回見たとき確かにガレキはきれいに撤去されていたが草や水たまりはそのままの状態。復興計画が定まっていないのだ。Aさんがある廃屋につれていってくれた。そこの玄関の柱や木の壁に書かれたいくつかのメッセージに目を奪われた！

「お母さんに会いたい」（左）

「お父さんいつも優しくしてくれてありがとう。お母さいつも見守ってくれてありがとう」（右）



思わず目頭が熱くなった。涙した！　この家族はどこにいったのだろうか？　子どもは両親に会えたのだろうか？…

カメラのシャッターをいくつか押し、その後しばし立ち尽くすばかり…。

横倒しのビルはそのまま…

[2 日目]　朝 7 時に出発し、雄勝（おかつ）・女川地域へ。津波でほぼ壊滅した雄勝。小学校・中学校の無人の校舎が見えた。車窓に朝日に照らされた横倒しのビル。津波のエネルギーのすごさが想像できる。ひとつのモニュメントになっている。高台にある女川町立総合病院へ。多数の町民が避難した場所だ。病院の玄関の前の柱に「津波の到達高・1 階床より 1.95m」の表示。横倒しのビル（写真）のある女川港の海岸よりこの病院は 15m くらい高いから「当日は恐らく 17～18m の高波が押し寄せたらしい」と A さん。この病院よりさらに高い神社に駆け上がった町民もいるという。

児童と教職員 84 人犠牲の大川小へ

児童と教職員 84 人が津波で亡くなった大川小学校へ向かった。多数の花が手向けられた慰霊碑の前で合掌。A さんが説明した。「今保護者が市教委を相手に訴訟を起こしている。―――当日なぜ安全な場所に避難誘導できなかったか。確かに裏山がある。しかし、そこはうっそうとした森で児童を駆け上がらせるにとても無理な傾斜。それより前に、校庭に児童を集合させて教師自身もパニック正常な判断ができない状態だったのではないか」。

校庭の一角にある崩れた壁画「未来を拓く」を見に行った。そこには宮沢賢治のあの詩の一節「雨にも負けず、

風にも負けず」が――。（一部文字が欠けていた）

「あの日児童は校庭でどんな思いだったのか、襲いかかった津波の濁流の中でなすすべがなかったのか、彼らの「幸福」はこれからだったというのに・・・」と胸を締め付けられた。

その後、カキの養殖をしている S さんの所に寄り、正午頃ドライブインで昼食をとり、一路東京へ。

終わりに

復興は非常に遅い。今回の衆議院選挙で選ばれた政治家は被災した住民の立場に立つ政治を行ってくれるのだろうか。仮設住宅の入居期限は来年 3 月。いつ被災者の顔に本当の笑みが戻ってくるのだろうか？

今は、「皆でがんばっぺぇな！」の合言葉を胸にきびしい冬を乗り切ってほしい、と切に考えている。

おめでたいニュース！

昨年一二月一八日開催の第六一回東京都社会福祉大会にて「災害ボランティアネットワークチーム小平」は、東日本大震災被災者（地）支援に対する特別感謝7団体の一つとして選ばれ、東京都社会福祉協議会会長感謝状をいただきました。

（細江卓朗さんより）

地区のイベント予定

1月19日（土）　小川2丁目児童館祭り
20日（日）　カン独楽長回し大会（きつねっぱら公園）
31日（木）　「愛唱歌をうたう会」上水新町地域センター
〃　高齢者クラブ・身延山初詣バス旅行
2月　9日（土）　チーム小平「立川断層」講演会
9～11日　3日間連続の自由遊び・家つくり・基地作り（きつねっぱら公園）
24日（日）　小平市制施行50周年事業「子育て・子育ちシンポ」（白梅学園大学）

感謝とお願い

小平中央公園横の雑木林を半分削り、玉川上水を36m幅で分断する道路建設計画に対して、「住民参加により計画案を見直す」べきと思うか、「計画案の見直しは必要ない」と思うかについて、小平市民に投票してもらう「住民投票」の実現に向けての署名集めにご協力いただき、どうもありがとうございました！！

皆さんのご協力により、規定の約3,000筆を超える署名が集まりました。1月15日に、集めた署名を市に提出し、次は市議会での条例案可決を目指します。市議の皆さんへの働きかけをお願いします！

（小平都市計画道路に住民の意思を反映させる会
共同代表　水口　和恵）

（小平駅頭での署名集め：12月26日）

ネットワーク担当者一覧

ブロック	世話人	教職員
1	西　克彦・布　昭子	山路・瀧口・井上
2	芳井正彦・足立隆子	関谷・土川
3	石川貞子・久保田進 穂積健児	草野・西方・牧野
4	渡辺穂積・萩谷洋子 福井正徳・桜田　誠 細江卓朗	森山・杉本・ 瀧口（眞）
全体的		奈良・長谷川・ 成田・吉村

（地区のイベント、相談事は世話人にご連絡ください）

お願い：このニュース『小平西のきずな』の編集方針は「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加者の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。

ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当（奈良まで）お申し出ください。

投稿募集：このニュースレターは皆さんと一緒に作るものです。活動やイベントの企画などについての原稿をお寄せください。

Email：ever.onward.nara@aroma.ocn.ne.jp　奈良

編集後記：昨年3月スタートした西地区ネットワークは10か月が過ぎ、コミュニティ・サロン「ほっとスペースさつき」　の誕生などやっと活動が軌道に乗ってきた感がします。この広報紙「きずな」もさらに皆様の協力を得てさらに充実させていきたいと考えます。今年もよろしく。（N）